

介護ロボ開発へ現場のニーズ公開、開発企業を支援 厚労省

2021年6月14日 18:05

厚生労働省は14日、現場で求められている介護ロボットのニーズを公開し、企業がニーズを反映した介護ロボを開発できるよう支援する事業を開始したと発表した。ニーズは移乗介助、移動支援、排泄介助といったテーマごとに分類しており、国内各地にある介護ロボの開発連携のための協議会で設定した約50個のテーマを取り上げた。ニーズを解決する介護ロボの開発に関心のある企業を募集し、応募した企業には関連する技術を持った企業を紹介したり、専門家が助言したりする機会も設ける。

事業名は、「介護ロボットのニーズ・シーズマッチング支援事業」。介護ロボの開発実績のある企業だけでなく、未参入の企業や要素技術を持った企業も応募できる。同事業のホームページ (<https://www.kaigo-ns-plat.com/>) から申し込むことが可能で、応募にかかる料金は無料。希望する場合は、全国8カ所にある介護ロボットの開発拠点（リビングラボ）から支援を受けたり、現場を活用した実証試験を実施したりすることもできる。